

平成26年度 第2回 島根県がん対策推進協議会

沖縄県におけるがん対策の取り組みについて
—ユイマールでつなぐ沖縄のがん対策—

琉球大学医学部附属病院がんセンター

増田 昌人

沖縄県のがん対策のお手本は島根県です

しまねのがん対策

がん対策 3つの柱

島根県ではがん医療の向上を願う患者や家族の声に応えるために、「がんの予防」「医療水準の向上」「患者支援」の3本を柱とした「がん対策」に取り組んでいます。

◆イベントカレンダー◆

<< 2015年 >>

1月	2月	3月	4月
5月	6月	7月	8月
9月	10月	11月	12月

しまねの病院

がん患者支援
がん医療水準の向上



がんを知る

しまねのがん対策医療



がんにならないために

がん検診



新着情報

- 2015/01/14 ▶ サロン「徳城たんぽぽのサロン便り」平成26年10月号・11月号を掲載しました。(PDF形式 / 1,056 KB)
- 2015/01/14 ▶ 2/20(金) 島根大学医学部附属病院で「社会保険労務士によるがん患者さんの就業相談会」が開催されます。(PDF形式 / 366 KB)
- 2015/01/07 ▶ 「知ろう、語ろうがんのこと」im 大田が放送されます。【1月分放送予定表】(PDF形式 / 66 KB)
- 2015/01/06 ▶ 吉賀町ゆめサロン便り 第265号を掲載しました。(PDF形式 / 101 KB)
- 2015/01/06 ▶ 島根大学医学部附属病院ほっとサロンだより第97号を掲載しました。(PDF形式 / 321 KB)
- 2014/12/26 ▶ ほっとサロン「浜田便り」1月号を掲載しました。(PDF形式 / 190 KB)
- 2014/12/26 ▶ 2/14(土) 松江テルサで「がん患者のくらしを支える絆結び ～がんになっても安心して働き暮らせる地域であるために～」が開催されます。(PDF形式 / 354 KB)
- 2014/12/26 ▶ 雲南サロン「陽だまり」第83号を掲載しました。(PDF形式 / 408 KB)



市町村案内



厚生労働省関係



がん関連図書検索

島根県の取り組み

沖縄県、沖縄県がん診療連携協議会、琉大病院がんセンター共催

日本を代表するがん政策提言者の話をお聞きになりませんか

申し込み不要
参加無料

日程: 平成22年 9月 3日(金)

時間: 午後6時～8時

場所: 琉球大学医学部臨床講義棟2階大講義室

演者: 三好 綾さん
(NPO法人がんサポートかごしま 理事長)

演題: 『 鹿児島県のがん対策と患者会活動について 』

演者: 小豆澤 伸司さん
(島根県健康福祉部 医療政策課がんスタッフ企画幹)

演題: 『 患者・家族と連携する島根のがん対策～行政の立場を中心に～ 』

三好 綾(みよし あや)さん

8年前の27歳時に乳がんが見つかり手術を受け、患者会活動やピンクリボン運動を始める。著書「乳がんなんてやっつける！」。現在「がん患者サロン」で週に2日、がん相談を担当。がん患者とその家族らを支援するイベント「つなげよう！命のリレー」を鹿児島市で開催。厚生労働省がん対策推進協議会・患者委員。



小豆澤 伸司(あずきざわ しんじ)さん

島根県健康福祉部医療政策課 がん政策サミットでがん対策条例・島根県の事例、行政の立場から条例が県のがん対策を変える上でどのような効果があったのか発表。



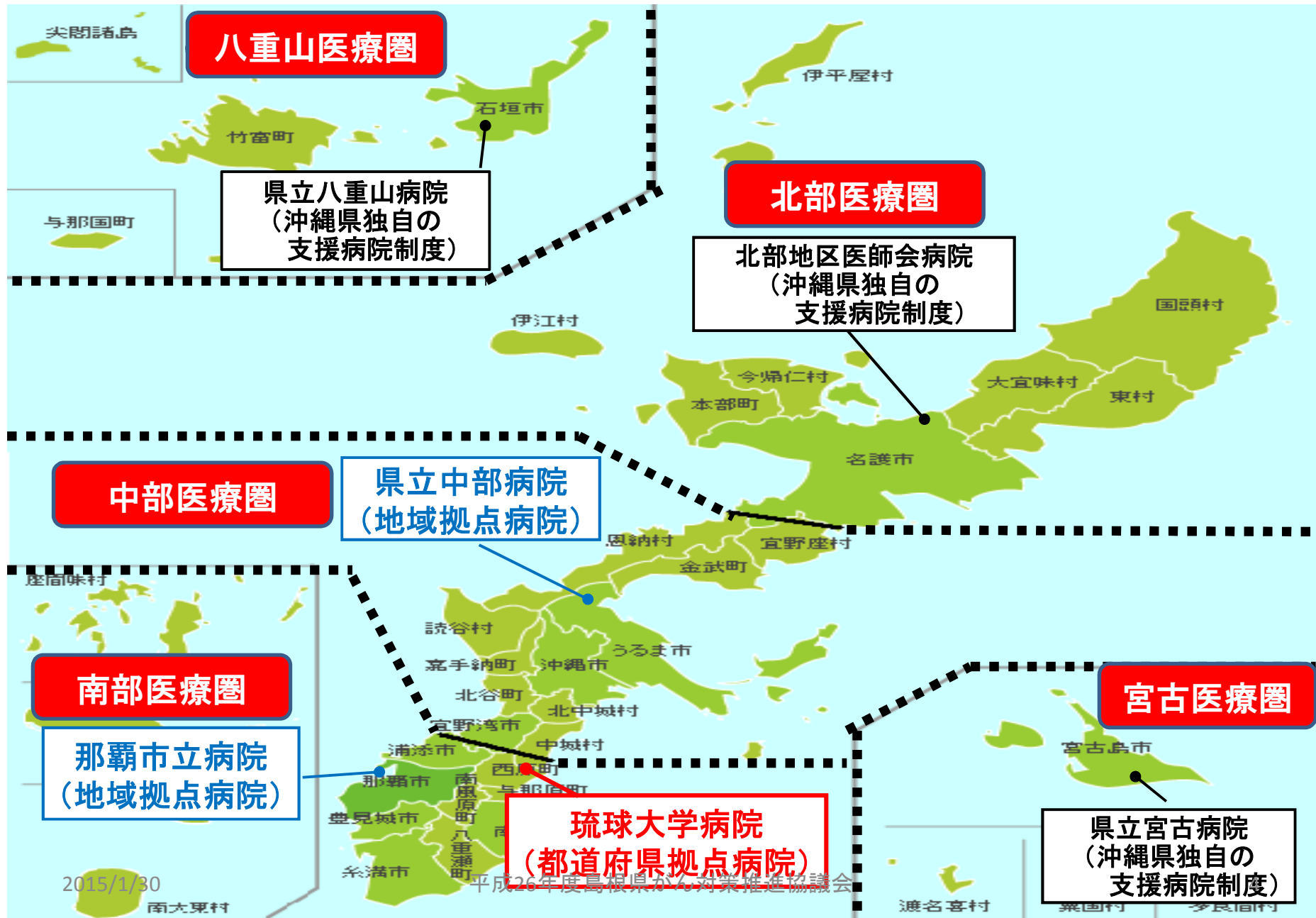
がん医療、対策に働きかけているお2人のお話をぜひお聞きください！

お問合せ：琉球大学医学部附属病院がんセンター 増田 昌人
電話：098-895-1368 FAX:098-895-1497
E-mail: mail@ryukyucc.jp URL: http://www.ryukyucc.jp/

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

沖縄県のがん診療連携拠点病院と支援病院



沖縄県におけるがん診療連携拠点病院・支援病院



地域がん診療連携拠点病院

沖縄県がん診療連携支援病院

都道府県がん診療連携拠点病院
琉球大学医学部附属病院

連携・支援

連携・支援

連携・支援

連携・支援

連携・支援

北部医療圏

中部医療圏

南部医療圏

宮古医療圏

八重山医療圏

北部地区医師会病院

沖縄県立中部病院

地方独立行政法人
那覇市立病院

沖縄県立宮古病院

沖縄県立八重山病院



連携・支援

連携・支援

連携・支援

連携・支援

連携・支援



地域の医療機関

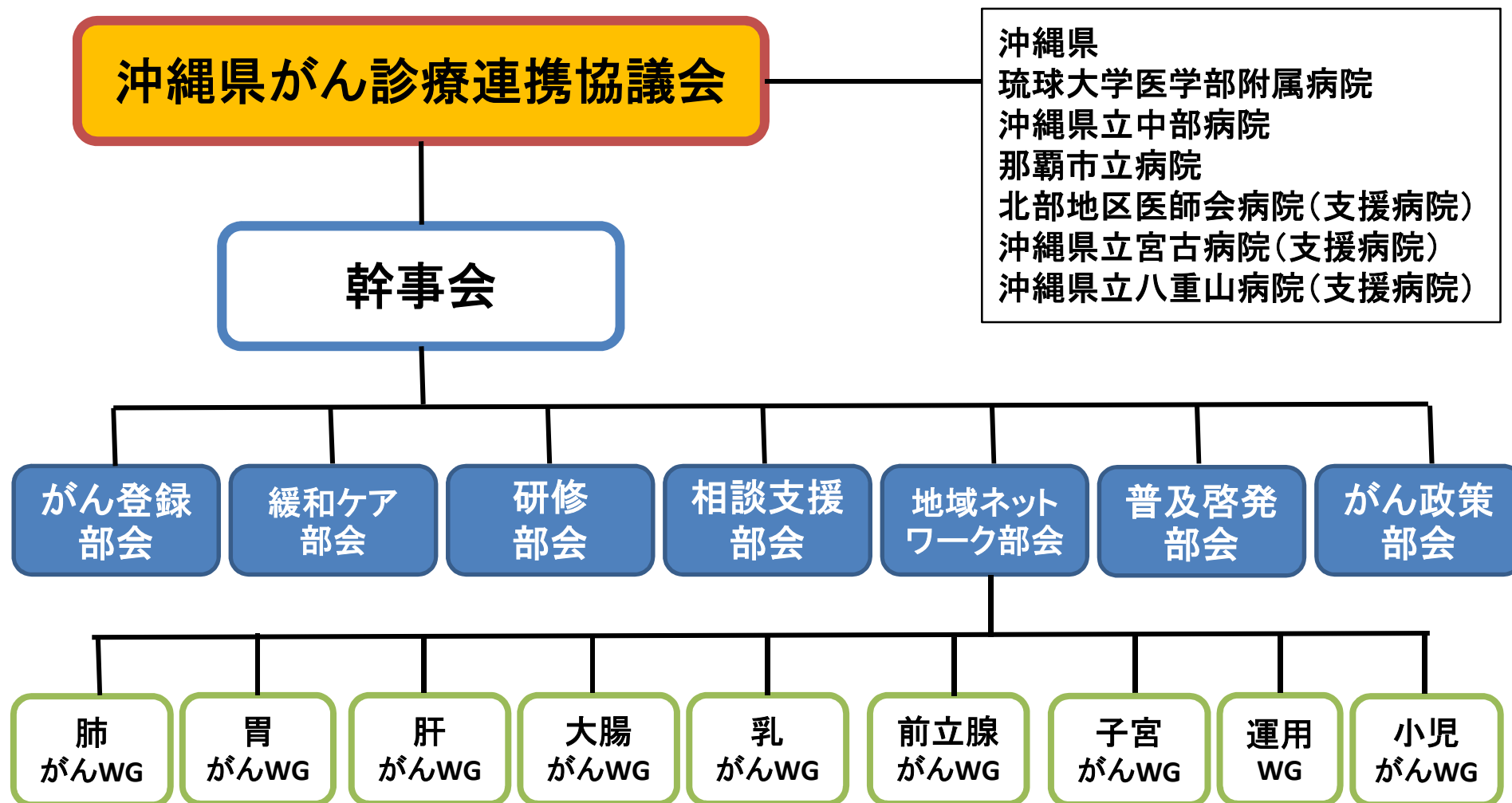
地域の医療機関

地域の医療機関

地域の医療機関

地域の医療機関

沖縄県がん診療連携協議会 組織図



沖縄県がん診療連携協議会 委員

県拠点病院 (10名)	地域拠点病院・ 支援病院(12名)	沖縄県および 各種団体(6名)	患者委員および 有識者委員(6名)
病院長	地域拠点病院長	(県政策参与(副知事相当))	患者関係委員若干名
前副病院長	同副院長から1名	県福祉保健部長	(1)患者
看護部長	同部長から1名	医師会長	(2)患者家族
薬剤部長	支援病院長	歯科医師会長	(3)患者遺族
医療福祉支援 センター長	同副院長・部長から1名	薬剤師会長	有識者 若干名
病理部長		看護協会長	(1)がん患者会理事長
歯科口腔外科科長			(2)大学教員
骨髄移植センター長 (小児科)			(3)地元新聞社記者
事務部長			
がんセンター長			



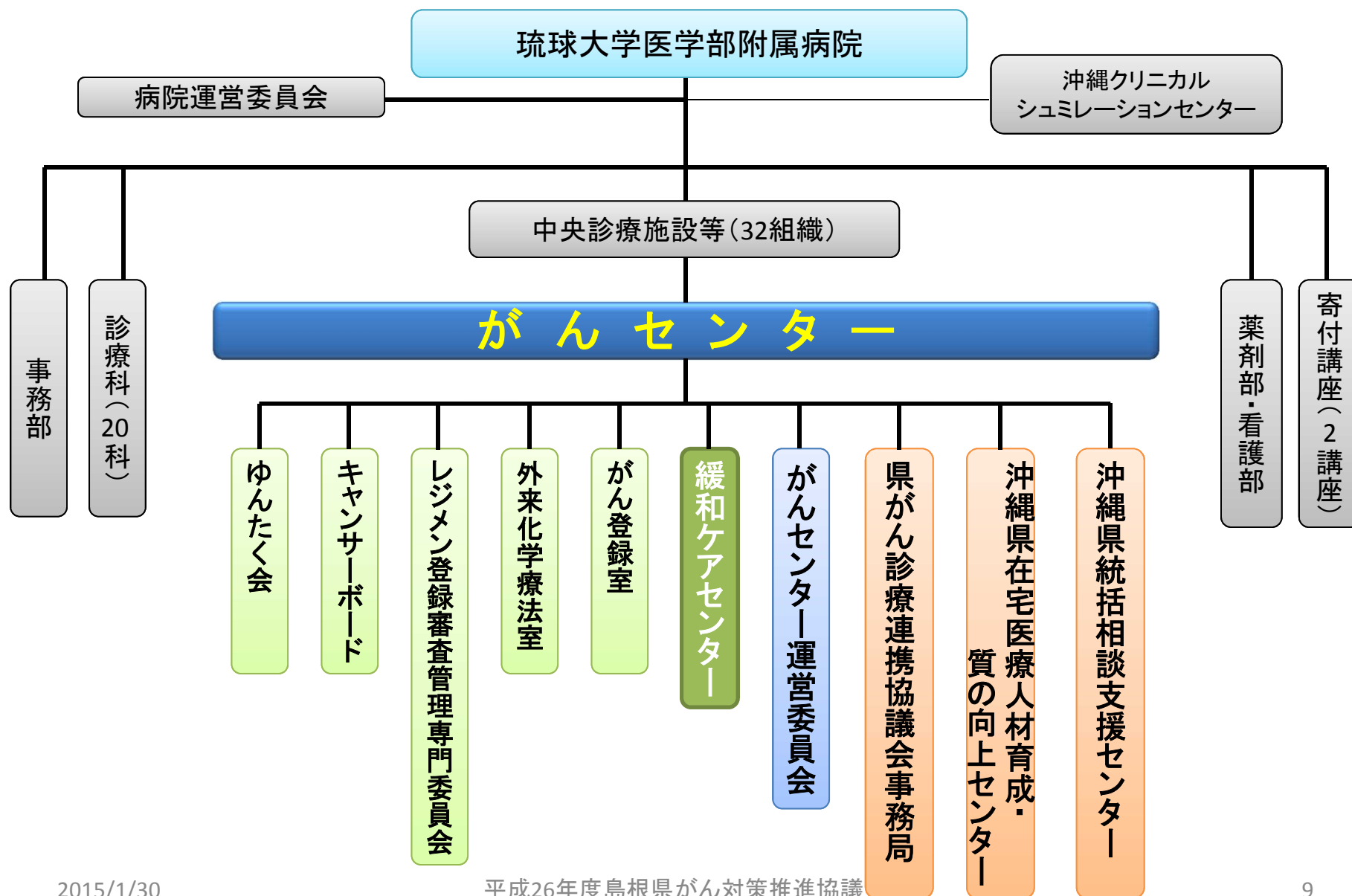
平成26年度島根県がん対策推進協議会



沖縄県がん診療連携協議会 ホームページ

The screenshot shows the homepage of the Okinawa Cancer Care Collaboration Association. At the top, there is a header with the logo 'うちな〜がんネット がんじゅう' and the text '沖縄県がん診療連携協議会運営サイト'. To the right, a blue banner states: '全てのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得することが目標です。' Below this are three navigation buttons: 'お問い合わせ CONTACT US', 'プライバシーポリシー PRIVACY POLICY', and 'サイトマップ SITE MAP'. The main content area is divided into several sections. On the left is a 'コンテンツメニュー Contents' sidebar with links to 'トップページ', '患者さん・ご家族・県民の方へ', '沖縄県がん診療連携協議会', '医療関係者の方へ', '部会について', and 'リンク集'. Below this is a 'サイト内検索 Search' box. The central part features a large photo of the association's members with the text '部会について' and a description of the seven departments. To the right of the photo are three buttons: '患者さん・ご家族 県民の方へ', '医療関係者の方へ', and '部会について'. Below the photo are three more buttons: 'セカンドオピニオン について', 'がん診療に関する Q&A', and '協議会活動報告'. A green banner below these buttons reads 'がん治療・ケアに関する様々な活動 お気軽にご参加・ご登録ください'. Underneath this banner are six activity cards: 'タウンミーティング' (Town Meeting), '緩和ケア研修会' (Palliative Care Seminar), '全県統一5大がん 地域連携クリティカルパス' (Unified 5 Major Cancers Regional Collaboration Critical Path), '患者必携' (Essential for Patients), 'うちな〜がん基金' (Uchina-gan Fund), and '地域及び院内がん登録' (Regional and In-hospital Cancer Registration). At the bottom, there is a '新着情報 News&Topics' section with a Twitter icon.

琉球大学医学部附属病院がんセンター



本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. **がん患者に対する就労支援**
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

(1) 就労カフェの開催①

ご当地カフェ in 沖縄

～がんになったあとの暮らしを学ぶ・語るイベント～

くご当地カフェとは、がんになったあとの暮らしについて学び、語り合う学習イベントです。このたびは沖縄県地域統括相談支援センターと国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部の共催で、がん治療と仕事の両立を考えるカフェを聞くことになりました。お茶を飲みながら講演を聞き、両立の課題をみんなでざっくばらんに話し合いませんか？

日時: 2014年1月19日(日) 13:00~16:00(12:00開場)

場所: 浦添市でだこホール 市民交流室

主催: 沖縄県地域統括相談支援センター 国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部

後援: 琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

定員: 50名(事前申し込み不要、当日直接会場においてください)

対象: 一般県民(特にがん体験者やご家族、医療者や職場の方、その他関心のある方ならどなたでも、病気の有無は問いません。)

参加費: 無料(会場にお茶とお菓子あり)

プログラム:

- [13:00] 開会あいさつ: 増田 昌人(沖縄県地域統括相談支援センター センター長)
- [13:05~14:00] 講演: 高橋 都(国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部長) 「がんになっても働きたい! ~両立のために自分・職場・医療者ができること」
- [14:00~14:10] 休憩
- [14:10~14:30] 沖縄県における働くがん患者の現状(県内関係者3名)
- [14:40~15:30] カフェタイム: お茶をしながら、仕事や日常生活のことをみんなで話そう
- [15:30~16:00] 全体発表
- [16:00] 閉会あいさつ: 樋口 美智子(沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 部長)

「ご当地カフェ in 沖縄」のお問い合わせ先
 沖縄県地域統括相談支援センター 担当: 鳥袋(琉球大学医学部附属病院がんセンター内) tel: 098-942-3407 / fax: 098-942-3408

国立がん研究センターがん対策情報センター
 がんサバイバーシップ支援研究部

がんサバイバーシップを学ぶ・語る
公民館カフェ

第1回ご当地カフェ in 沖縄

東京

日時: 2014年1月19日(日) 13:00~16:00
 場所: 浦添市でだこホール 市民交流室
 共催: 沖縄県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部
 後援: 琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
 定員: 50名
 参加費: 無料

プログラム:
 [13:00] 開会あいさつ: 増田 昌人(沖縄県地域統括相談支援センター長)
 [13:05~14:00] 高橋 都(国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部長) 「がんになっても働きたい! ~両立のために自分・職場・医療者ができること」
 [14:00~14:10] 休憩
 [14:10~14:30] 沖縄県における働くがん患者の現状

がん患者の就労考える 19日 浦添でだこホール

がん患者の就労について現状や課題を学ぶ「ご当地カフェ・イン沖縄」(主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがん対策情報センター)が19日午後1時、浦添市でだこホール市民交流室である。国立がん研究センターの高橋都さんが「がんになっても働きたい!」をテーマに講演。参加者が、お茶を飲みながら仕事や日常生活の問題を話し合うカフェタイムもある。県内での開催は初めて。

15日、沖縄タイムス社を訪れた県地域統括相談支援センターの上原弘美さん(写真右)は「治療にお金がかかるがん患者にとどめて、就労は重要な問題。患者会の枠を超えて当事者同士が語り合う機会が少なかったため、患者や家族だけでなく関心のある多くの人に参加してほしい」と呼び掛けた。

参加無料。問い合わせは県地域統括相談支援センター、電話098(942)3407。

がん体験者や家族ら 語り合うカフェ開催

きょう、でだこホール「がんになった後の暮らしを学ぶ、語り合う「ご当地カフェ in 沖縄」(主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部)が19日、浦添市でだこホール市民交流室で開催された。入場無料。がん体験者や家族、医療者らが集まり、お茶を飲みながら互いの悩みや意見を交わし、新たな支援の方法を考える。

第1部では国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部長の高橋都さんが、がん患者と就労をテーマに講演する。第2部では「沖縄における働くがん患者の現状」と題し、行政

「ご当地カフェ in 沖縄」をPPTする県地域統括相談支援センターの上原弘美さん(左)と高橋都さん(右)が15日、浦添市でだこホール市民交流室で記者会見を行った。

・医療関係者が報告する。参加者がグループに分かれて意見交換するカフェタイムを続ける。県地域統括相談支援センターの上原弘美さんは「多くの方が意見を交わすことが新たな支援につながる」と参加を呼び掛けた。問い合わせは同センター☎098(942)3407。

職場と医師 連携重要

がん患者の就労議論

がん患者の5年生存率が約6割に上るといわれる。がんになっても働きたい!」をテーマに講演した、国立がん研究センターのがんサバイバーシップ支援研究部長の高橋都さんは、長く付き合う慢性病として、がんを捉える必要がある」と語った。

参加者は六つのグループに分かれ、①働く時に困ったこと②どのようなことを知っていたか③周りの人を知ってよかったことについて話し合った。

がん体験者からは「治療のため、仕事を休まざるを得ず、医療費、生活費をどこから捻出するか大変」「自営業で、従業員が自分を含め2人だけだった」「傷病手当の申請など、どんな制度がありどこに相談すればいいのかわからず困った」などの声も寄せられた。

企業の立場からは「いつからいつまで休むのか、治療期間を知りたい」「休業中の雇用について、育児休業のような法的な支援がないと中小企業は厳しい」という意見が上がった。

「ご当地カフェ」は、沖縄県皮切りに、今後全国各地で開催する予定という。

がんになった後の暮らしを学ぶ、語り合う「ご当地カフェ in 沖縄」(主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部)が19日、浦添市でだこホール市民交流室で開催された。入場無料。がん体験者や家族、医療者らが集まり、お茶を飲みながら互いの悩みや意見を交わし、新たな支援の方法を考える。

第1部では国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部長の高橋都さんが、がん患者と就労をテーマに講演する。第2部では「沖縄における働くがん患者の現状」と題し、行政

◆ご当地カフェ がんとの付き合い方

がんになった後の暮らしを学ぶ、語るイベント「ご当地カフェ in 沖縄」(主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部)が19日、浦添市でだこホール市民交流室で開催された。がん体験者をはじめ、医療関係者や会社員、経営者など関心のある人たちが約70人が参加した。

日本人の2人に1人は、がんの診断を受けると言われ、5年生存率は約6割に上るといわれる。「がんになっても働きたい!」をテーマに講演した、国立がん研究センターのがんサバイバーシップ支援研究部長の高橋都さんは、長く付き合う慢性病として、がんを捉える必要がある」と語った。

参加者は六つのグループに分かれ、①働く時に困ったこと②どのようなことを知っていたか③周りの人を知ってよかったことについて話し合った。

がん体験者からは「治療のため、仕事を休まざるを得ず、医療費、生活費をどこから捻出するか大変」「自営業で、従業員が自分を含め2人だけだった」「傷病手当の申請など、どんな制度がありどこに相談すればいいのかわからず困った」などの声も寄せられた。

企業の立場からは「いつからいつまで休むのか、治療期間を知りたい」「休業中の雇用について、育児休業のような法的な支援がないと中小企業は厳しい」という意見が上がった。

「ご当地カフェ」は、沖縄県皮切りに、今後全国各地で開催する予定という。

(1) 就労カフェの開催②

日時: 2014年1月19日(日)午後

主催: 沖縄県地域統括相談支援センターと
国立がん研究センターがん対策情報センター
がんサバイバーシップ支援研究部

<プログラム>

1. 高橋都先生講演
2. ステークホルダーによる沖縄県における働くがん患者の現状報告
3. カフェタイム: お茶をしながら、仕事や日常生活のことをみんなで話そう(グループワーク)
4. 全体発表

<ステークホルダー>

- 沖縄県がん患者会連合会 事務局長
- 沖縄県福祉保健部医務課 課長
- 沖縄県商工労働部雇用政策課 班長
- 沖縄労働局職業安定部 部長
- 那覇商工会議所 専務理事
- 沖縄県商工会連合会 専務理事
- 連合沖縄 副事務局長
- 琉球大学病院医療福祉支援センターMSW
- 琉球大学公衆衛生学教授, 産業医



2015/1/30



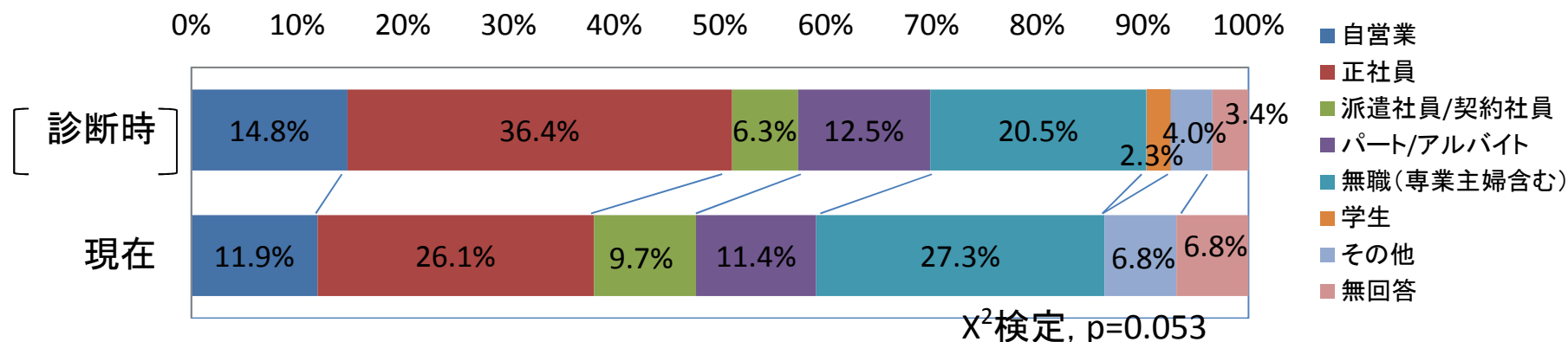
平成26年度島根県がん対策推進協議会



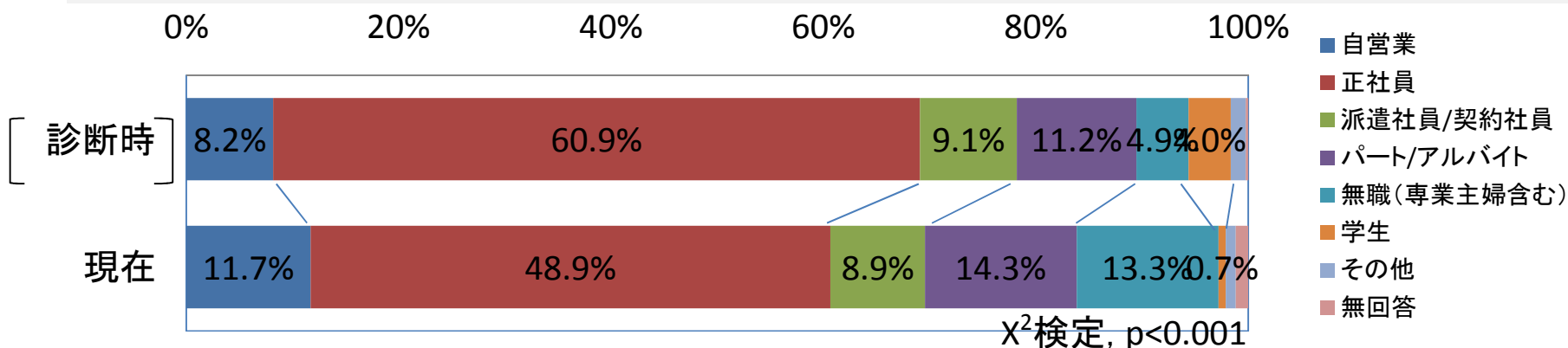
12

(2) アンケート結果① がん患者の診断時と診断後調査時の就労状況

沖縄 N=176



全国 N=427



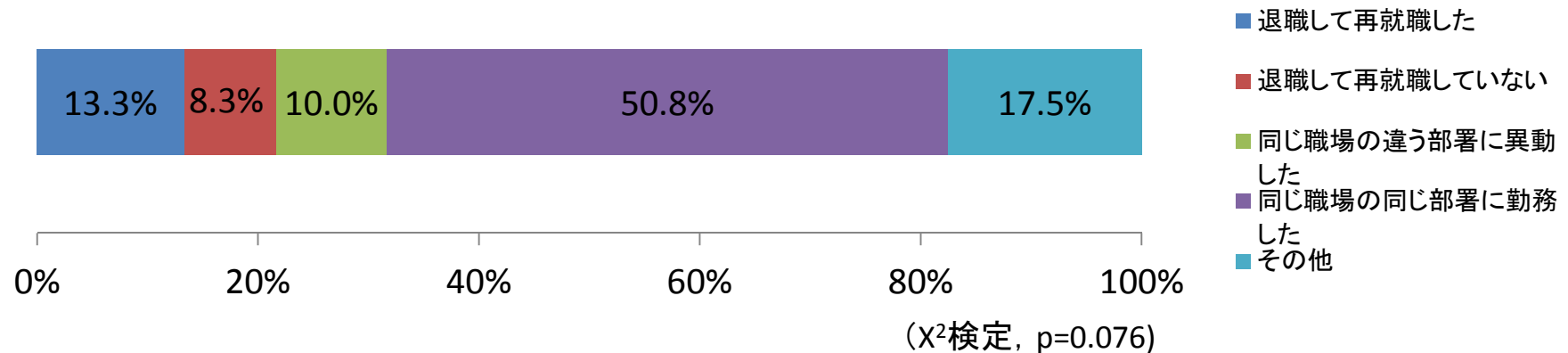
- 全国調査も沖縄も、診断時に比べて診断後の調査時は**正社員が減少**した。
また、診断時に比べて診断後の調査時は**無職の割合が増加**した。

(2) アンケート結果②

がん患者の検査・治療が進む中での働き方の変化

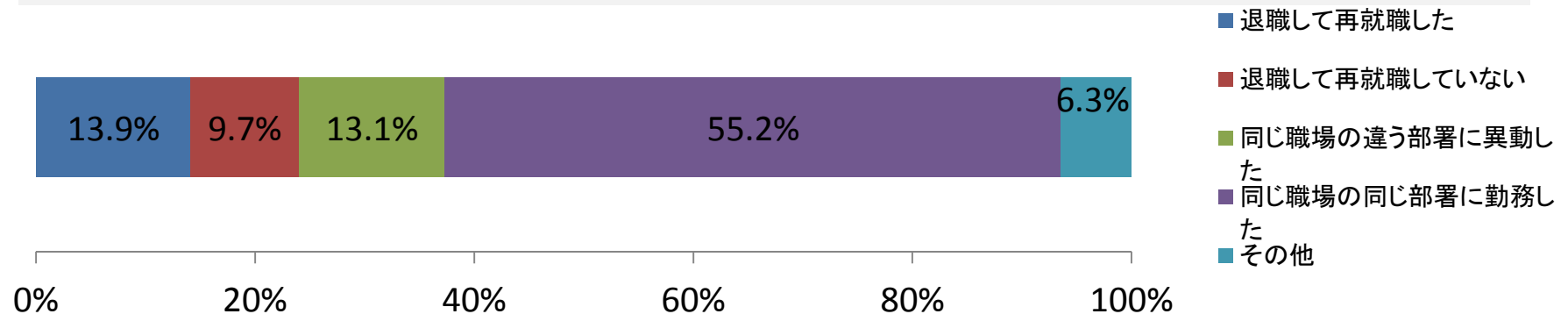
沖縄

N=176



全国

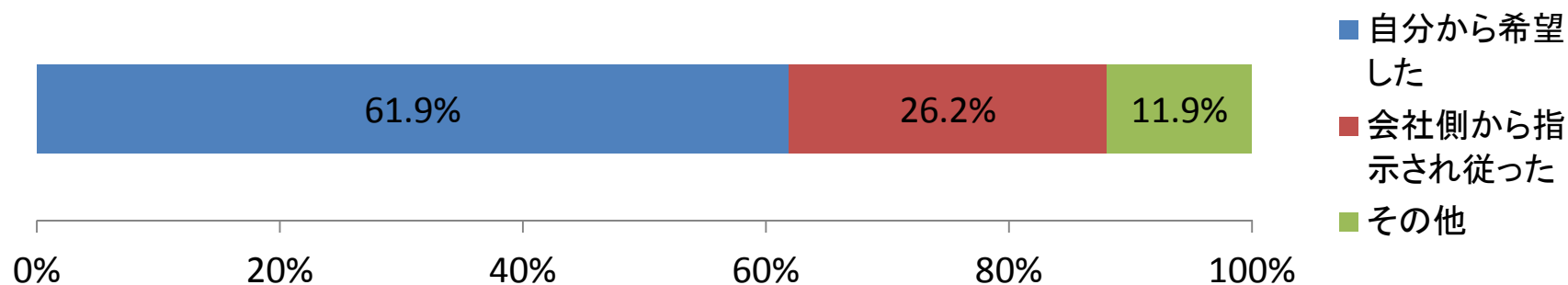
N=427



- 全国調査も沖縄の回答者も、がん診断時に働いていた方の**2割以上が退職したが、半数は診断後も診断時と同職場・同部署に勤務している。**

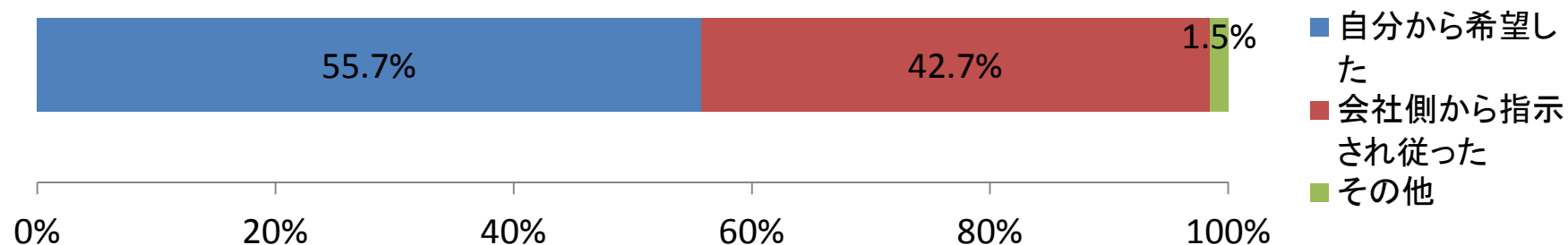
(2)アンケート結果③ がん患者の退職・異動が決まった経緯

沖縄 N=42



(χ^2 検定, $p < 0.001$)

全国 N=140

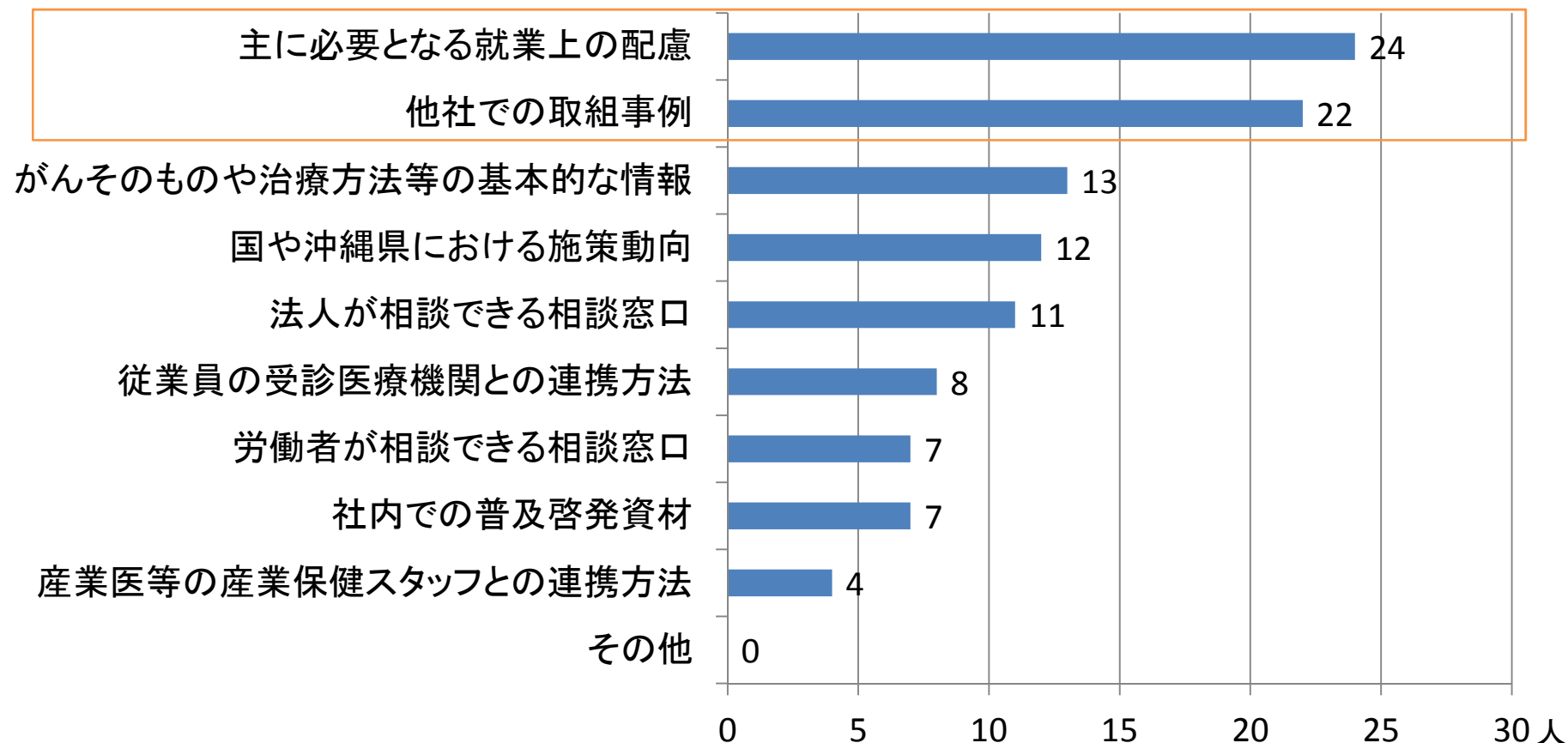


- 全国調査では**43%**、沖縄の回答者では**26%**が会社からの指示によるものであった。

(2) アンケート結果④

法人として、がん患者の就業について特に知りたい内容

回答者総数 40人(複数回答)



- 担当者の知りたい情報では、「主に必要となる就業上の配慮」「他者での取組事例」が多数を占めていた。

(3) 事業所向け就労支援冊子

1. 沖縄県から、琉球大学病院がんセンターへの委託事業
2. 対象：
 - 労働者を雇用する事業所の雇用主および人事労務担当者. 具体的には、雇用人数10名以上の中小企業. ただし、被雇用者も一緒に読めることを想定して編集
3. 制作
 - 2013年9月から編集会議開始し、翌2014年3月完成
 - 2014年3月31日発行 A4, 8P, フルカラー, 2万部
4. 制作委員
 - 社会保険労務士(沖縄県社会保険労務士会推薦)
 - 沖縄県職員健康管理センター産業看護師
 - 琉球大学病院がんセンター長, 医師・元産業医
 - 医療ソーシャルワーカー 他, 計6名
5. 編集協力
 - 国立がん研究センターがん対策センターがんサイバークリニック支援研究部
 - 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会



(4) 沖縄県社会保険労務士会と拠点病院との 意見交換会

- 日時: 2014年12月19日午前
- 場所: 沖縄県社会保険労務士会事務局
- 参加者: 沖縄県社会保険労務士会3名(会長, 副会長, 労働紛争解決センター長)
拠点病院相談支援担当者6名
 - 琉球大学病院がん相談支援センター副センター長, 担当MSW2名,
 - 琉球大学病院がんセンター長
 - 那覇市立病院総合相談センター長(相談支援部会長)
 - 県立中部病院がん相談支援センター看護師
- 協議事項
 1. 相談支援内容
 2. 具体的な契約内容
 3. 今後の方針



(4) 社会保険労務士の病院内配置

日時: 2015年2月6日～

毎週金曜日の午後

場所: 琉球大学病院

がん相談支援センター

相談者: 沖縄県社会保険労務士会推薦の
2名の社労士が隔週来院

対象: がん患者とその家族(事前予約制)

開始前研修会(予定)

- (1) がん医療について
- (2) がん対策について
- (3) がん相談について

* 先ずは琉球大学病院で開始して、その後
地域拠点病院で次年度中に開始予定

**がん患者さんのための
就労支援相談のご案内**
～病気とつきあいながら働く～

当院では、がんになっても安心して働けるように社会保険労務士
による相談を始めました。仕事に関する様々な問題について、雇用
問題や社会保険・年金の専門家に相談してみませんか。

このような質問に社会保険労務士がお答えします

- 治療中は仕事はしない方がいいのでしょうか?
- 周りから退職をすすめられているのですが…
- 今まで払ってきた年金はどうなりますか?
- どのくらいの期間休職できますか?
- 退職したら健康保険はどうなるのでしょうか?
- 傷病手当金について教えてください。
- 失業手当はもらえますか?

※就職先の紹介は出来かねます。ご了承ください。

**事前予約制
相談無料**

相談室について	
相談日	毎週金曜日(週1回)
時間	午後1時～5時(事前予約制)
対象者	がん患者ご本人とご家族
場所	琉球大学医学部附属病院2F 医療福祉支援センターシエント内

予約受付	
電話での 相談予約	098- 895-3331 【内線:3383】
予約 受付時間	受付時間 午前9時～12時 月～金 午前1時～4時半

琉球大学医学部附属病院
がん相談支援センター

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. **がん登録部会**
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

(1)院内および地域がん登録研修会

1. 目的

- 院内がん登録に関する専門的な知識の習得
- 地域がん登録の届け出方法の周知
- 実務者間ネットワークの構築
- 院内がん登録実務指導者の育成

2. 平均参加人数： 約70名

3. 参加者職種： 診療情報管理士, 医療クラーク, 医師事務作業補助者, 一般事務, システム担当, 施設長, 医師など

平成26年度
第2回院内がん登録研修会
主催：琉球大学医学部附属病院 共催：沖縄県がん診療連携協議会 がん登録部会

研修内容
「生存率の計算方法について」
講義：生存率の基礎
演習：実際に生存率を計算してみよう！
※ 平成26年度第1回院内がん登録研修会と同じ内容です

講師紹介
東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学 助教
中村 文明(なかむら ぶんめい) 先生

開催日
2014.11.29 土

会場
琉球大学医学部附属病院
1階小会議室
開場：13:30 開演：14:00～17:00
対象：院内がん登録を行っている実務者
1施設3名まで、合計30名程度
※ 平成26年度第1回院内がん登録研修会に参加できなかった
参加者優先

※ 研修費：ノートパソコン (各施設1台)

【お問い合わせ】
沖縄県がん診療連携協議会がん登録部会事務局 <http://www.kanran.jp/>
[琉球大学医学部附属病院がんセンター内]
TEL: 098-895-1359(直通) FAX: 098-895-1497 担当: 仲本



(2) がん登録を始めるにあたっての説明会



1. 目的

- 施設がスムーズに地域および院内がん登録を開始できる
- 院内がん登録を実施する施設の増加
- 地域がん登録への届け出数の増加
- 施設の管理者に地域および院内がん登録の重要性を理解してもらう

2. 実績

- 10施設で実施
- 合計参加人数: 89名
- 参加者職種: 病院長, 副病院長, 診療部長, 各科担当医, システム担当, 診療情報管理士, 医療クラーク, 一般事務職員

3. 結果

- 説明会を実施した10施設中9施設で, 院内および地域がん登録を開始

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

患者用緩和ケアパンフレットの作成と配布

- 緩和ケアの正しい理解と普及啓発の為に、緩和ケアについてのパンフレットを作成し、県内のがん診療を行っている全ての医療機関へ配布を行った
- 入院するすべてのがん患者さんに配布をお願いした

病院の緩和ケアチームにご相談下さい

がん診療連携拠点病院(琉大病院・那覇市立病院・県立中部病院)の医療相談室は他の病院に通っている患者さん、ご家族の相談も受け付けております。ご利用下さい。

沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会

沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会

【連絡先】

制作：琉球大学医学部附属病院がんセンター
〒900-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原 207 番地【電話 098 (395) 1360】

緩和ケアって...なに?

がんと告知されたその時から、病と向きあう患者さんやご家族の体や心の負担を軽くして、生活の質を向上させるのが「緩和ケア」です。

痛みが良くなったり、気持ちが楽になったりすると

☆食欲がでてきて治療が受けやすくなります

ご家族の気持ちが癒れると

*患者さんの気持ちも楽になります

「治療が終わってから」...
「病気が悪化してから」...
「緩和ケア」を始めるというのは誤解です!

痛みやつらさを我慢せず 主治医・担当看護師にご相談下さい。

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

(1)『がん患者サロン』の創設と運営

1. 琉球大学病院がんセンターで直接運営： がん患者ゆんたく会



2. 以下の患者サロンは、琉球大学病院がんセンターで立ち上げ、軌道に乗ってからは、地元の病院に運営を引き継いで頂いた

- (1) 中部がん患者ゆんたく会；沖縄県立中部病院
- (2) やんばるがん患者ゆんたく会；北部地区医師会病院
- (3) 宮古がん患者ゆんたく会；沖縄県立宮古病院
- (4) 石垣がん患者ゆんたく会；沖縄県立八重山病院

がんサロンネットワーク キックオフイベント

参加費 無料 申込 不要

がんになっても自分らしく イキイキと輝く ～患者のちから～

日時：2015年2月14日（土） 14:00～17:00
会場：琉球大学医学部臨床研究棟 1階大学院セミナー室

第一部：第2回患者会合同企画 【対象】 関心のある方

14:00～「治療と仕事の両立」
講師：島尻章子氏 サバイバーナースの会「びあナース」

14:30～「患者力を身につけよう」
講師：金城隆展氏 琉球大学医学部附属病院地域医療部

15:00～ 患者会の紹介

第二部：がんサロンネットワーク 【対象】 サロン世話人

15:45～17:00 「がんサロンゆいまーる連絡会」（仮称）

県内がんサロンの世話人同士が集い、互いの交流・連携を深め、がん患者とその家族が安心して暮らせる環境づくりを目指す会のプレイベントです。

主催：琉球大学医学部附属病院、沖縄県立中部病院、那覇市立病院
共催：沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
サバイバーナースの会「びあナース」、沖縄県婦人科がん患者会宇宙船子宮号、那覇西ひまわりの会
多発性骨髄腫おきなわ患者の会、小児がん経験者の会「Ti-daわらばーむ」
お問い合わせ先：琉球大学医学部附属病院がんセンター TEL:098-895-1368 大久保・上原

(2) 患者必携 地域の療養情報； おきなわ がんサポートハンドブック①

- 旧「**がん対策推進基本計画**」（2007年6月策定）にて、その作成等が定められたのがきっかけで作成された
- がん患者にとって必要な**がんに関する情報**を**取りまとめた冊子**で、**がんと診断されたすべての方に**、患者必携に含まれる情報を届けることで、患者がより良い療養生活を送ることを目指している

自分らしい向き合い方を考えるために読む『**がんになったら手にとるガイド**』（951円）2013年9月発行

聞いたり調べたりして理解したことを書きとめて整理する『**私の療養手帳**』（ガイドに附属）2013年9月発行

相談窓口などの情報をとりまとめた『**地域の療養情報**』（無料）（A5判サイズ）2014年3月発行



2015/1/30



平成26年度島根県がん対策推進協議会



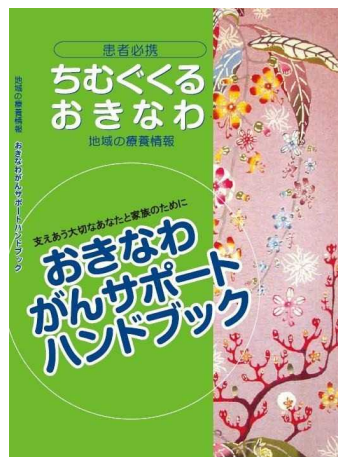
27

(2) 患者必携 地域の療養情報； おきなわ がんサポートハンドブック②

- 厚労科研「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」班が、「地域の療養情報」の企画・製作・臨床試験を行った。茨城，栃木，静岡，愛媛県版を先行して試作し，次に高知と沖縄県版を試作した。
- 『おきなわがんサポート ハンドブック』は，沖縄県内の治療や療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報を取りまとめた冊子
- 沖縄県・沖縄県がん診療連携協議会・琉球大学病院がんセンターの三者が共同で2011年3月に2万部発行。以後も，毎年2万部発行，無料配布中
- 拠点病院を中心にがん患者とその家族に担当医等から無料配布を開始。患者必携「地域の療養情報」の発行，無料配布は国内初。



2015/1/30



平成26年度島根県がん対策推進協議会



28

(3) 医師向け「がん診療におけるチェックリスト」の発行・配布

- 『おきなわがんサポートハンドブック(第2版)』の無料配布開始にあたり、一部のがん患者さんがこのチェックリストを利用することが想定されるため、これを翻案して「患者のためについて医師むけパンフレット」を製作した
- 2012年12月より、がん診療を行っている全ての医療機関の、全ての医師へ配布を行った。
- これにより、医療者側の意識の変化をねらいとする

がん診療に携わる医師の皆様へ
「がん診療におけるチェックリスト」をご活用ください
ご存知ですか？
 県内すべてのがん患者さんやそのご家族に無料配布されている「おきなわがんサポートハンドブック(地域の療養情報)」に、患者さんが確認しておく良いリストが掲載されています。
 患者さんやご家族と、治療や療養計画をご相談される際に、ご活用ください。

**がんの疑いがあると言われてから
治療が終わるまでに確認しておく良いリスト**
患者の病歴・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック 第2版」P.6-7 基幹
 出版：沖縄県がん診療連携協議会/琉球大学医学部附属がんセンター

<p>1 疑いがあると言われてから治療開始まで</p> <p><input type="checkbox"/> 十分な時間(30分以上)をとってご家族や友人と一緒に説明を受けましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 説明を受ける際に、看護婦などに立ち会ってもらいましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 自分の正式な病名と病期について理解しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> あなたがすすめられた治療法は標準治療、または科学的根拠(エビデンス)のある治療ですか？</p> <p><input type="checkbox"/> 通院する医療機関の診療内容や体制を確認しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> セカンドオピニオン(他の医師の意見)を取りましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 治療中の生活において、あなたが大事にしたいことを主治医に伝えましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> あなたがすすめられた治療法がなぜよいのか、またその具体的な予定を理解できましたか？</p> <p>2 治療開始後</p> <p><input type="checkbox"/> 今後の検査の予定を具体的に書いて整理しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 今後の治療(手術療法または化学療法または放射線療法、あるいはそれらの組み合わせなのか、外食治療または入院治療なのか)の予定を具体的に書いて整理しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 副作用(吐き気、しびれ、白血球や血小板の減少など)について、満足のいく説明と対応をもらっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 治療にかかる費用の目安について確認しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 民間保険や各種制度(高額療養費制度等)の手続きをしましたか？</p>	<p><input type="checkbox"/> 治療結果や体側の記録をとっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 食事や薬についての説明を受けましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 同じ病気の仲間と悪いを分かち合い、情報を得ていますか？</p> <p>3 治療全体を通じて</p> <p><input type="checkbox"/> 利用できる各種の窓口の連絡方法と、どんなときにどんなことが聞けるのか確認しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 苦しいこと・つらいこと(気分の落ち込み・不安・不眠・痛み・食欲不振など)は主治医に全て伝えていきますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 痛みを完全に抑えてもらっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 気分の落ち込み・不安・不眠などについて、満足のいく説明と対応をもらっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 呼吸器、胸水、腹水、だるさ、食欲不振などの症状について、満足のいく説明と対応をもらっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 地域で利用できる制度やサービスを把握しましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 代替補完療法・健康食品・サプリメントを利用するときは、メリット(良い点)・デメリット(悪い点)を確認しましたか？</p> <p>初回治療後がんが 残ったとき転移・再発した時</p> <p><input type="checkbox"/> 現在の病状や今後の見通しを聞いていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 今できる治療法とその目的を理解していますか？</p> <p><input type="checkbox"/> これからのことについて主治医やご家族と話し合っていますか？</p>
--	---

発行：沖縄県がん診療連携協議会 相談支援部会
 問い合わせ先 TEL.098-895-1368(琉大病院 がんセンター内) mail@ryukyucc.jp

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

(1) がん地域連携クリティカルパスの作成と運用①



あなたを支える 地域連携クリティカルパスのご案内

病院に通院する人も近くのかかりつけ医を持ちましょう

地域連携クリティカルパスについて

「地域連携」とは、専門施設と地域のかかりつけ医が綿密な連携を図り、患者さんにとってより良い医療を提供する仕組みです。地域連携を潤滑に行うツールとしてクリティカルパスを活用します。

「地域連携クリティカルパス」は、

1. 患者さんの診療に必要な情報を医師、看護師・薬剤師などが共有しスムーズな診療を行うことが出来るように作成した診療計画表です。
2. 患者さんに納得していただいたうえで開始します。

「地域連携クリティカルパス」に基づいて専門施設とかかりつけ施設の双方の主治医が共同して診療を行います。

私のカルテについて

私のカルテは、がん患者さんのための地域連携クリティカルパスです。自分の身体の状態を専門施設とかかりつけ施設の双方の主治医に知らせるために活用します。専門施設・かかりつけ施設を受診する時に持参して下さい。

私のカルテには

1. 地域連携クリティカルパスの説明書
2. 自己チェックシート

わたしの情報

氏名 _____

生年月日 T-H 年 月 日 _____

住所 _____

電話 _____

緊急連絡先電話番号 _____

血液型 型 身長 cm. 体重 kg _____

アレルギー歴 **その他**

あり なし _____

くすりの副作用情報

くすり 症状 いつ頃 _____

今までにかかった病気

アレルギー性疾患 ()

心臓の病気 ()

腎臓の病気 ()

肝臓の病気 ()

消化器の病気 ()

その他 ()

【患者さま用】前立腺がん術後連携パス 自己チェックシート

*症状があれば罫に印を付けて下さい

自己チェック項目	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月
	/	/	/	/	/	/	/	/
尿もれ								
尿が出にくい								
頻尿								
血尿								
残尿感								
その他								

(2) 医療計画のための医療機能調査票の作成と分析①

<概要>

- 県内における医療機関の配置状況や機能の分布状況等を把握することにより、沖縄県保健医療計画改定の基礎資料をすることが目的である。
- 調査票の作成については各疾患に係る専門知識が必要となることから、調査票のがんの部分は沖縄県がん診療連携協議会に協力依頼があった。

<依頼内容>

- 胃・大腸・肝・肺・乳・子宮・その他のがんについての医療機能調査票を作成する。

(2) 医療計画のための医療機能調査票の作成と分析②

沖縄県医療機能調査票(大腸癌部分)

2-6 がんの診療(大腸がん)

Q99. 貴院では、大腸がんの確定診断および治療について該当する欄1つに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 大腸がんの確定診断および治療に対応している	→Q100へ。
02	<input type="checkbox"/> 可能な限り診断には対応するが、確定診断・治療にあたっては他院を紹介している	→Q114へ。
03	<input type="checkbox"/> 積極的に診断・治療には対応していない。又は対応していない	→Q114へ。

Q100. 貴院における大腸がんの診断または治療を行った症例数を下記記入下さい。(平成23年1月1日～12月31日の1年間の実績)

症例数: 件。

Q101. 貴院において施行している診断として該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 通常内視鏡検査	02	<input type="checkbox"/> 拡大内視鏡検査	03	<input type="checkbox"/> NBI
04	<input type="checkbox"/> 超音波内視鏡検査	05	<input type="checkbox"/> 大腸X線検査		

Q102. 貴院において施行している内視鏡治療として該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> Polypectomy	02	<input type="checkbox"/> EMR	03	<input type="checkbox"/> ESD
----	--------------------------------------	----	------------------------------	----	------------------------------

Q103. 貴院では、手術療法を施行していますか。該当する欄1つに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 施行している	→Q104へ。
02	<input type="checkbox"/> 施行していない	→Qへ。

Q104. 貴院では、大腸がん診療ガイドラインに則った手術療法を施行していますか。該当する欄1つに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 切除範囲のみガイドラインに則っている	02	<input type="checkbox"/> 郭清範囲のみガイドラインに則っている
03	<input type="checkbox"/> 切除範囲・郭清範囲ともガイドラインに則っている	04	<input type="checkbox"/> ガイドラインに則っていない

Q105. 貴院において施行している術式すべての手術件数について下記記入下さい。(平成23年1月1日～12月31日の1年間の実績)

01 開腹手術		
01-01	結腸切除術	件
01-02	高位前方切除術	件
01-03	低位前方切除術	件
01-04	超低位前方切除術	件
01-05	内括約筋切除術	件
01-06	腹会陰式直腸切断術	件
01-07	大腸全摘術	件
01-07-01	回腸囊肛門吻合術	件
01-07-02	回腸囊肛門吻合術	件
01-08	直腸肛門的直腸腫瘍切除術	件
02 鏡視下手術		

02-01	結腸切除術	件
02-01-01	上行結腸	件
02-01-02	横行結腸	件
02-01-03	下行結腸	件
02-01-04	S状結腸	件
02-02	高位前方切除術	件
02-03	低位前方切除術	件
02-04	超低位前方切除術	件
02-05	内括約筋切除術	件
02-06	腹会陰式直腸切断術	件
02-07	大腸全摘術	件
02-07-01	回腸囊肛門吻合術	件
02-07-02	回腸囊肛門吻合術	件

Q106. 貴院における手術成績として該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 5年生存率の算定	02	<input type="checkbox"/> 5年生存率の公表	03	<input type="checkbox"/> 地域連携バスの導入
----	-----------------------------------	----	-----------------------------------	----	------------------------------------

Q107. 貴院では、化学療法を施行していますか。該当する欄1つに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 施行している	→Q108へ。
02	<input type="checkbox"/> 施行していない	→Q109へ。

Q108. 貴院において施行している化学療法として該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 経口化学療法	02	<input type="checkbox"/> 静注化学療法(単剤)	03	<input type="checkbox"/> 静注化学療法(多剤併用、経口も含む)
04	<input type="checkbox"/> 分子標的薬(<input type="checkbox"/> アバスチン <input type="checkbox"/> アービタックス <input type="checkbox"/> ベクティビックス)	05	<input type="checkbox"/> 外来化学療法		

Q109. 貴院では、放射線療法を施行していますか。該当する欄1つに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 施行している	02	<input type="checkbox"/> 施行していない
----	---------------------------------	----	----------------------------------

Q110. 貴院において施行している放射線療法として該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 通常放射線療法	02	<input type="checkbox"/> IMRT放射線療法の準備	03	<input type="checkbox"/> 放射線化学療法
----	----------------------------------	----	---------------------------------------	----	----------------------------------

Q111. 貴院において放射線治療に併用しているレジメンとして該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 5FU	02	<input type="checkbox"/> UFT	03	<input type="checkbox"/> UFT/UZEL	04	<input type="checkbox"/> ZELODA	05	<input type="checkbox"/> S1
06	<input type="checkbox"/> IRIS	07	<input type="checkbox"/> FOLFOX	08	<input type="checkbox"/> FOLFIRI	09	<input type="checkbox"/> その他()		

Q112. 貴院は、日本大腸肛門病学会の日本大腸肛門病認定施設ですか。該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> 認定施設である	02	<input type="checkbox"/> 認定施設ではない
----	----------------------------------	----	-----------------------------------

Q113. 貴院(自院)に所属する日本大腸肛門病学会の専門医はいますか。該当する欄すべてに☑をお付け下さい。

01	<input type="checkbox"/> いる	02	<input type="checkbox"/> いない
----	-----------------------------	----	------------------------------

(3) 医療計画のための専門医療機関選定①

<概要>

- 沖縄県では、平成25年4月施行予定の新たな沖縄県保健医療計画の見直し作業を進めていた。
- その中のがん，糖尿病，急性心筋梗塞，脳卒中の各病期を担う医療機関の選定基準の検討について，各疾患に係る専門知識が必要となることから，**がんの部分は沖縄県がん診療連携協議会に協力依頼**があった。

<検討内容>

- がんの現状と課題・施策の方向性について
- がん医療体制に関する医療機関選定要件について

日程	内容
2012年 9月5日	沖縄県福祉保健部から沖縄県医師会に協力依頼
10月24日	沖縄県医師会から沖縄県がん診療連携協議会に検討依頼
10月29日	胃癌WG を開催し検討開始。
11月7日	子宮癌WG を開催し検討開始。
11月12日	乳癌WG を開催し検討開始。
11月19日	大腸癌WG を開催し検討開始。
11月21日	肝癌WG を開催し検討開始。
11月22日	肺癌WG を開催し検討開始。
	メーリングリストを利用して検討
2012年 2月20日	WG案を沖縄県福祉保健部および沖縄県医師会に提出

(3) 医療計画のための専門医療機関選定②

専門医療機関選定基準(肺がんWG案)

呼吸器専門医 かつ 呼吸器外科専門医がいる施設

呼吸器専門医(社団法人日本呼吸器学会)

呼吸器外科専門医(特定非営利活動法人日本呼吸器外科学会)



肺がんに対して以下を施行している施設

化学療法 かつ 放射線療法



肺がんに対する手術の実績が24例以上ある施設

(平成23年1月1日～12月31日)

4施設 選定

(3) 医療計画のための専門医療機関選定③ がん診療を行っている専門医療機関;ハンドブックで紹介

2. 県内の医療体制

(2)がん診療を行っている専門医療機関

沖縄県保健医療計画では、国の指定を受けたがん診療連携拠点病院をはじめ、診療ガイドラインに準じた診療や、手術療法、化学療法又は放射線療法を組み合わせた集学的治療等を実施する医療機関を、専門的がん診療機関として位置づけています。計画に係る掲載要件は、沖縄県ホームページをご覧ください。

連携拠点病院に関しては ➡P22

※出典:沖縄県保健医療計画(第6次)
<http://www.pref.okinawa.jp/site/fukushi/imu/iryoukeikaku.html>

※その他のがんの専門施設については、
 がん相談支援センターにお問合せください。➡P36

メモ

2. 県内の医療体制

施設名	肺がん	胃がん	肝がん	大腸がん	乳がん	子宮がん	放射線療法
北部地区医師会病院	—	○	—	○	○	—	—
県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○
中部徳洲会病院	—	—	—	—	○	—	—
中頭病院	—	○	○	○	○	○	—
ちばなクリニック	—	—	—	—	○	—	—
ハートライフ病院	—	○	○	○	○	○	—
琉球大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○
沖縄病院	○	—	—	—	—	—	○
浦添総合病院	—	○	○	○	○	—	—
沖縄赤十字病院	○	○	—	○	○	○	○
那覇市立病院	—	○	○	○	○	○	○
南部医療センター・こども医療センター	—	○	—	—	○	○	○
豊見城中央病院	—	○	○	○	○	○	—
南部徳洲会病院	—	—	—	—	—	—	○
Dr.久高のマンマ家クリニック	—	—	—	—	○	—	—
宮良クリニック	—	—	—	—	○	—	—
那覇西クリニック	—	—	—	—	○	—	—
那覇西クリニックまかび	—	—	—	—	○	—	—

(2014年2月現在)

第1部

病気や治療について

第1部

病気や治療について

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

(1) がん検診啓発ポスターコンテストと牛乳パックを利用した検診啓発

1. 沖縄県内の中学生・高校生を対象, 2014年度応募総数105点(18校)
2. がん診療連携協議会で審査・発表し, 表彰. 地元の新聞でも報道
3. 拠点病院・支援病院ロビーで巡回展覧会
4. 受賞作品は, ポスター(A3 各1,000枚)にしてコンビニや公共施設に掲示
5. 牛乳パックにコンテスト受賞者のポスターを掲載; (株)宮平乳業の協賛

**国場さんら3人表彰
がん検診ポスターコン**

第3回がん検診啓発ポスターデザインコンテスト(主催・県がん診療連携協議会)の表彰式が7日、西原町の琉球大学医学部付属病院であった。最優秀賞の国場梨奈さん(北中城高1年)と優秀賞の又吉志音さん(港川中2年)、アイデア賞の幸喜舞君(北中城高2年)に賞状が贈られた。アイデア賞作品を牛乳パックに印刷している宮平乳業には感謝状が贈られた。

国場さんの作品は「未来のために 積極的に 受けよう ガン検診」の言葉と、大人の指を子どもが握る構図。国場さんは「とても大切な検診を自分のためではなく、周囲のみんなのためにも受けてほしいとの願いを込めて丁寧に描いた。受賞してうれしい」と話した。

宮平隆雄社長は「創業100年を5年後に控え、お世話になっ



ている県民・地域のために何かしたいと思った」と話した。表彰式は同協議会の会議に先立ち開かれた。会議では「地域がん診療と、がん診療連携拠点病院のグループ化」や「呼吸器系外科医の育成」などをテーマに議論が交わされた。

優秀賞の又吉志音さん(右3人目)、
最優秀賞の国場梨奈さん(同3人目)、
アイデア賞の幸喜舞君(同4人目)と、
西原町・琉球大学医学部付属病院





低温殺菌 946ml

成分無調整 生乳100%使用

低温殺菌 宮平牛乳

4-95267300013

株式会社 宮平乳業



低温殺菌 946ml

成分無調整 生乳100%使用

低温殺菌 宮平牛乳

株式会社 宮平乳業

(2) 教育現場の方への研修会

1. 県立高等学校保健体育主任等研究協議会

- 開催日: 2014年4月30日
- テーマ: 「学校現場におけるがん教育について」
- 主催: 沖縄県教育庁保健体育課
- 参加者: 80人



2015/1/30

2. 養護教諭5年経験研修

- 開催日: 2014年8月14日
- テーマ: 「学校現場におけるがんについて」
- 主催: 沖縄県立総合教育センター
- 参加者: 28人



平成26年度島根県がん対策推進協議会

40

(3) がん検診啓発のためのラジオ番組の共同企画



1. がん征圧月間特別企画コマーシャル

- ラジオ沖縄
- 3年間、9月11～30日の20日間、がん検診の早期受診を啓発するコマーシャルを放送（スポンサーのご厚意による）



2. がん検診啓発特別番組

- ラジオ沖縄の人気番組「チャットステーションL」が“受けよう！ウチナ～！がん検診”を、普及啓発部会委員と共同企画
- 3年間、9月下旬の（金）14:00～16:00
- 啓発部会から医師とMSWを推薦

(4)メディアセミナー&メディアドクター in 沖縄

- 琉球大学病院がんセンターが主催し、メディアドクター研究会と国立がん研究センターの協力を得て開催している。
- 医療者とジャーナリスト、患者・市民が一同に会し、医療や保健情報の評価を通じて共通理解を形成し、その質を向上させることを目的とする

日程	テーマ
第1回 2012年3月3日	「肝炎」 に関する新聞報道の評価
第2回 2012年5月9日	「子宮頸がんワクチン」 に関する新聞報道の評価
第3回 2013年5月11日	「iPS細胞の臨床応用」 に関する新聞報道の評価

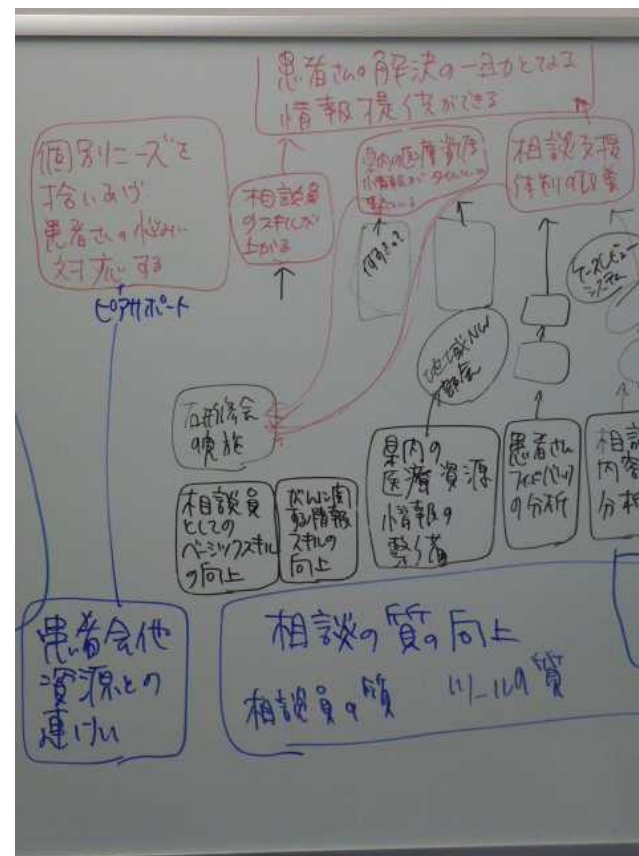


本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. **がん政策部会**
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

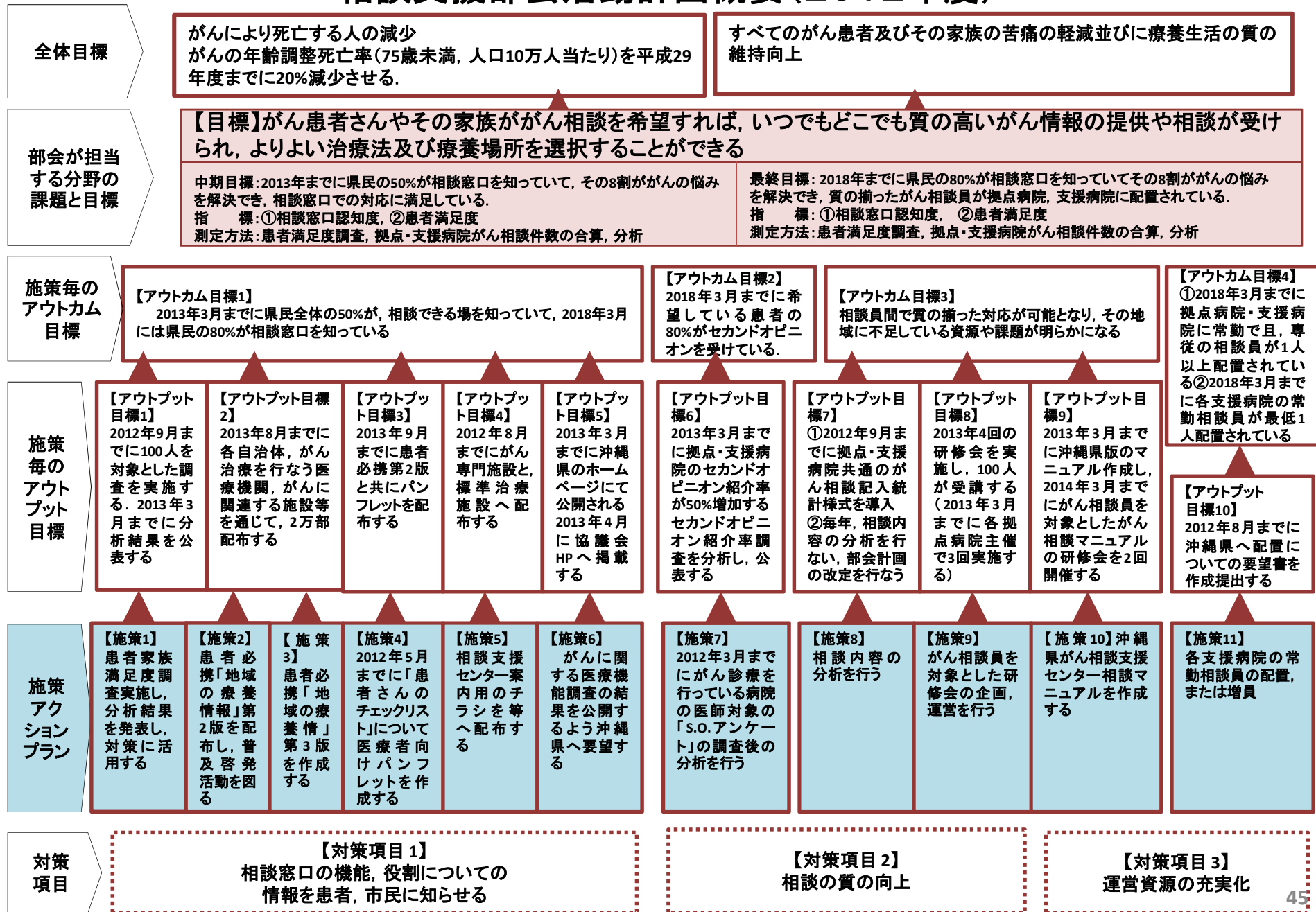
(1) ロジックモデルを用いたの 各専門部会の事業計画再構築作業①

- 2011年3月7～11日東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座宮田裕章教授を始めとする4名の外部有識者をお呼びして、沖縄県がん診療連携協議会各部会の事業計画再構築作業を行った。



相談支援部会事業計画再検討作業の様子

(1) ロジックモデルを用いた各専門部会の事業計画再構築作業② 相談支援部会活動計画概要(2012年度)



(2) がん対策に関するタウンミーティング①

【対象】 がん診療に携わる方々も含めた全ての一般市民の皆様



第8回シンポジウムの様子



第12回フリーディスカッションの様子

2015/1/30

平成26年度島根県がん対策推進協議会

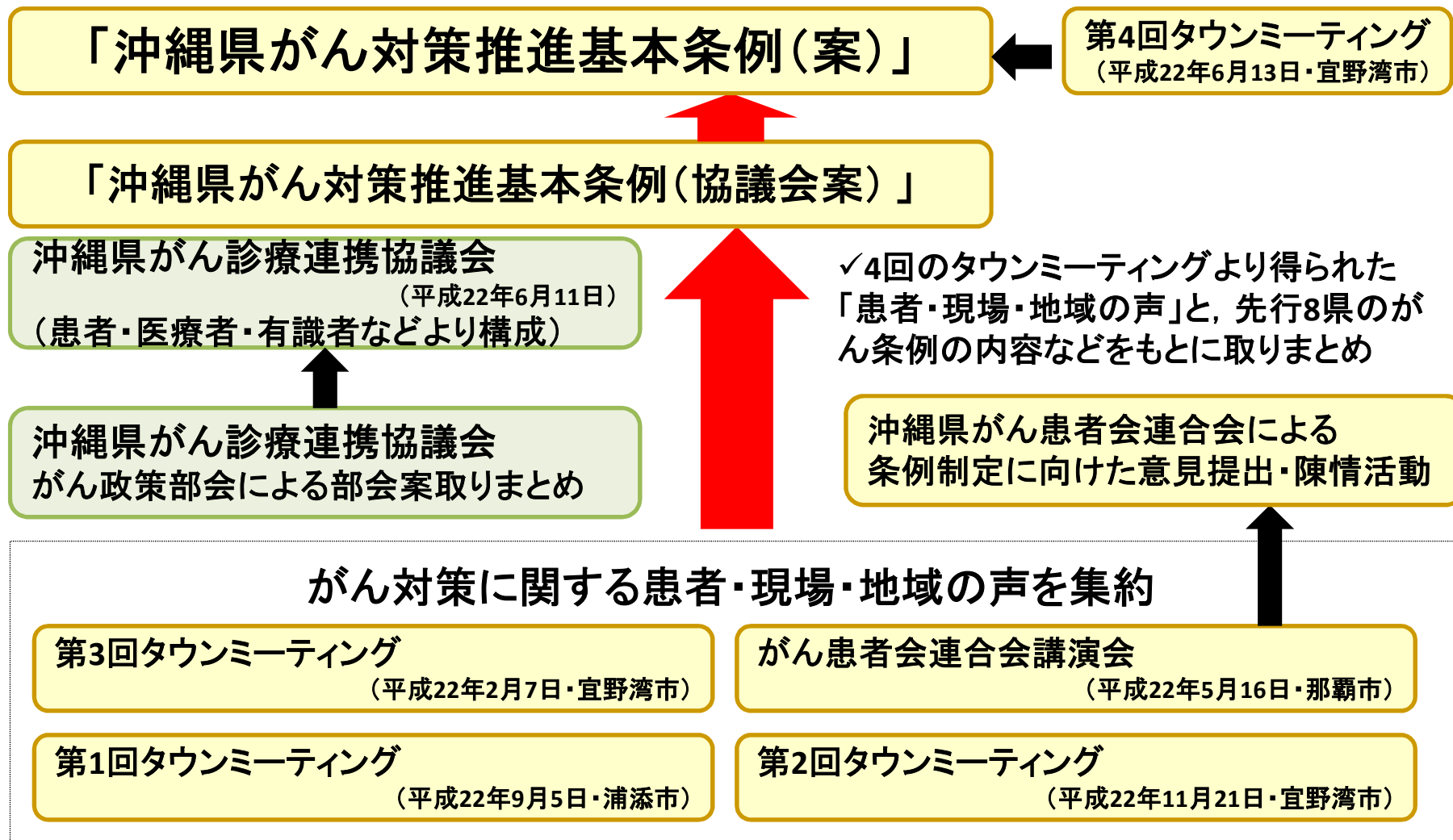


(2) がん対策に関するタウンミーティング②

がん政策と予算等について、今後の政策事項を話し合う集会として、2009年9月から開始した。

開催	テーマ	日付	参加人数
第1回	みんなdegんの政策と予算を考えよう	平成21年 9月 5日(土)	46名
第2回	みんなdegんの政策と予算を考えよう	平成21年11月21日(土)	32名
第3回	みんなdegんの政策と予算を考えよう	平成22年 2月 6日(土)	55名
第4回	沖縄県がん対策予算に向けた提案書	平成22年 6月13日(土)	40名
第5回	沖縄県がん対策予算に向けた提案書	平成22年 9月 4日(土)	20名
第6回	沖縄県がん対策推進基本条例について	平成22年11月20日(日)	9名
第7回	沖縄県がん対策推進基本条例について	平成23年 2月 6日(日)	36名
第8回	沖縄県がん対策推進基本条例について	平成23年 6月11日(土)	25名
第9回	沖縄県がん対策推進基本条例について	平成23年 9月 3日(土)	18名
第10回	次期沖縄県がん対策推進基本計画について	平成24年 4月22日(日)	40名
第11回	次期沖縄県がん対策推進基本計画について	平成24年 5月20日(日)	24名
第12回	次期沖縄県がん対策推進基本計画について	平成24年 7月 7日(土)	20名
第13回	次期沖縄県がん対策推進基本計画について	平成24年 9月22日(日)	10名
		参加者合計	365名

(3) 沖縄県がん対策推進基本条例(協議会案)の立案



(4) 沖縄県次期がん対策推進計画(協議会案)の立案

タウンミーティングで頂いた意見をロジックモデルに変換

活動(アウトプットをもたらす活動の内容)	結果(アウトカムをもたらすために期待される活動の結果)	中間成果(目標アウトカムに資する中間的な変化)	目標成果(達成すべき目標、あるべき姿)
1 県は、医療用麻薬処方医療機関および麻薬小売業免許取得薬局の調査を行い、実態を明らかにする。 さらに、各市町村に空白地域がある場合は、医療用麻薬の処方が可能になるように、空白地域の医療機関および薬局と調整を行う。	医療用麻薬処方医療機関が増加する。 ・26年度には、がん患者を診ているすべての医療機関で、麻薬の処方が可能となる。 麻薬小売業免許取得薬局数(現在163施設)が増加する。 ・26年度には、同薬局が、現在の1.2倍の196施設に増加する。 ・29年度には、同薬局が、現在の1.5倍の245施設に増加する。	医療用麻薬処方医療機関が、がん患者の居住地域の近くに存在する。 ・26年度には、すべての市町村に、医療用麻薬処方医療機関が存在する。 ・29年度には、すべての市町村に、2施設以上の医療用麻薬処方医療機関が存在する。 麻薬小売業免許取得薬局が、がん患者の居住地域の近くに存在する。 ・26年度には、すべての市町村に、麻薬小売業免許取得薬局が存在する。 ・29年度には、すべての市町村に、2施設以上の麻薬小売業免許取得薬局が存在する。	全てのがん患者とその家族が療養場所を問わず、質の高い緩和医療を受ける事ができ、安心して療養生活を維持することができる。 【目標】 ①患者・家族・遺族満足度満足度が60点以上のがん患者とその家族・遺族が90%以上となる
2 県は、医療機関や関係諸団体と調整を行い、緩和ケア病棟の新たな開設と、緩和ケア病床数の増加と適正な配置を行う。	緩和ケア病棟の新たな開設(現在3施設)と、緩和ケア病床数(現在51床)が増加する。 ・26年度には、各二次医療圏に緩和ケア病棟をもつ医療機関が1施設以上あり、緩和ケア病床数が現在の1.5倍の66床となる。 ・29年度には、各二次医療圏に緩和ケア病棟をもつ医療機関が2施設以上あり、緩和ケア病床数が現在の2倍の102床となる。	緩和ケア病棟へ入院を希望するがん患者が、実際に入院できるようになる。 ・26年度には、希望するがん患者のうち70%の患者が、緩和ケア病棟に入院できる。 ・29年度には、希望するがん患者のうち90%の患者が、居住する二次医療圏内の緩和ケア病棟に入院できる。	②精神的痛みを含む除痛率測定しているすべての施設での除痛率が80%以上になる。
3 県と拠点病院は、支援病院や医療計画で規定された専門的がん診療施設と連携して、緩和ケアに関する基本的な知識を習得した医師数を増加させるために、緩和ケア研修会およびフォローアップ研修会を開催する。	緩和ケア研修会を修了した医師者が、毎年200人増加する。 ・26年度には、研修会修了医師数が、累計400人増加する。 ・29年度には、研修会修了医師数が、累計1,000人増加する。	病院勤務医の大多数が、緩和ケア研修会修了者となる。 ・26年度には、拠点病院勤務医の60%、専門的がん診療施設勤務医の50%、その他の病院勤務医の40%が、研修会を修了している。 ・29年度には、拠点病院勤務医の80%、専門的がん診療施設勤務医の70%、その他の病院勤務医の60%が、研修会を修了している。 医療用麻薬の消費量が増加する。 ・26年度には、医療用麻薬の消費量が、現在の1.5倍に増加する。 ・29年度には、医療用麻薬の消費量が、現在の3倍に増加する。	
4 県は、緩和ケアチームおよび緩和ケアチームが行う緩和ケア外来の実態調査を行い、活動内容を明らかにする。 県は、拠点病院や関係諸団体と連携協力して、緩和ケアチームの立ち上げおよび緩和ケア外来の開設に助言と協力をし、さらに緩和ケアチームが関わるがん患者数および緩和ケア外来を受診するがん患者数の増加のために、助言と協力をを行う。	緩和ケアチームが活動している医療機関が増加する(現在14チーム)。 ・25年度には、すべての支援病院で、緩和ケアチームが活動している。 ・26年度には、すべての専門的がん診療施設で、緩和ケアチームが活動している。 ・27年度には、緩和ケアチームの50%以上が日本緩和医療学会に登録し、さらにすべての拠点病院の緩和ケアチームは診療報酬施設基準を満たす。 ・28年度には、すべての緩和ケアチームが日本緩和医療学会に登録し、さらにすべての支援病院の緩和ケアチームは診療報酬施設基準を満たす。 緩和ケアチームが行う緩和ケア外来を開設している医療機関が増加する(現在3施設)。 ・25年度には、すべての支援病院で、緩和ケア外来が開設されている。 ・26年度には、専門的がん診療施設の50%以上で、緩和ケア外来が開設されている。 ・27年度には、すべての専門的がん診療施設で、緩和ケア外来が開設されている。	緩和ケアチームへの依頼件数が増加する。 ・26年度には、緩和ケアの実施件数が、現在の2倍に増加する。 ・29年度には、緩和ケアの実施件数が、現在の5倍に増加する。 緩和ケア外来を受診するがん患者が増加する。 ・26年度には、緩和ケア外来の患者数が、現在の4倍に増加する。 ・29年度には、緩和ケア外来の患者数が、現在の10倍に増加する。	
5 県は、専門的がん診療施設と連携して、それらの施設で、がん患者に対しての「精神的痛みを含む除痛率調査」およびがん患者・家族・遺族に対しての「満足度調査」を行う。	除痛率を測定している医療機関(現在4施設)が増加し、調査されているがん患者数が増加する。 ・26年度には、専門的がん診療施設の70%が、すべてのがん患者に対して、除痛率調査を行っている。 ・28年度には、専門的がん診療施設の100%が、すべてのがん患者に対して、除痛率調査を行っている。 「満足度調査」を施行している医療機関(現在0施設)が増加し、調査されているがん患者数が増加する。 ・26年度には、専門的がん診療施設の70%が、同施設のがん患者とその家族または遺族のうち60%が、調査に参加している。 ・28年度には、専門的がん診療施設の100%が、同施設のがん患者とその家族または遺族のうち90%が、調査に参加している。	除痛率を測定している医療機関で、除痛率が毎年改善される。 ・26年度には、測定しているすべての医療機関の除痛率が60%以上となる。 ・29年度には、測定しているすべての医療機関の除痛率が80%以上となる。 「満足度調査」を測定している医療機関で、満足度が毎年改善される。 ・26年度には、満足度が60点以上の患者・家族・遺族が60%となる ・29年度には、満足度が60点以上の患者・家族・遺族が90%となる	

本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

(1) 沖縄県地域統括相談支援センターの概要

1. 概要

- 沖縄県地域医療再生基金を利用して、2011年10月琉球大学医学部附属病院外来棟3階に開設。
- センター長(兼任), **ピアサポーター(看護師)1名**, 事務職員2名(1名は琉球大学の独自予算からの応援)の計4名で活動
- 琉球大学病院がんセンタースタッフ10名が協力・後方支援

2. 主な活動

- (1) **がんピアサポート**
- (2) **がんピアサポーター人材育成**
- (3) 相談支援活動調査
- (4) がん患者・がん患者会等関係者
及びがん対策関係者との連携推進
- (5) **小児がん**に対する情報提供, 相談支援
- (6) **希少がん, 難治がん**に対する情報提供,
相談支援

がんについての不安や悩み、そのままの気持ち、ゆっくり話してみませんか。沖縄県地域統括相談支援センター

がん体験者による、
がん患者さんやそのご家族のためのピアサポート
098-942-3407
沖縄県地域統括相談支援センター 琉球大学医学部附属病院内

「がん」と診断されて、不安、つらい、心細い…。
その思い、私たちにお話しませんか。

がんについての不安や悩み。
そのままの気持ち、ゆっくり話してみませんか。
がん体験者のピアサポーターがあなたのごところに寄り添います。

お知らせ

- 2015.01.22 グループ・ネクサス・ジャパン主催 リンパ腫医療セミナーin沖縄開催のお知らせ
- 2015.01.08 Ti-daわらばーむ交流会@南部こども医療センター 開催報告
- 2015.01.06 2015年1月18日(日) 第11回小児がん経験者の会Ti-daわらばーむ開催
- 2014.11.06 Ti-daわらばーむ交流会@こども医療センター開催のお知らせ

予約受付時間
月～金 / 午前9:00～午後4:00
098-942-3407
代表：098-895-3331 (内線4359)
FAX：098-942-3408

(2) 院外がんピアサロン

沖縄県庁ロビー

大手書店

沖縄県地域統括相談支援センター主催
後援：琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会、沖縄県臨床心理士会

がんと共に生きる患者さんたちが
語り合う場所

第3回
「がんピアサロン」
を開催します。

がんによる悩み、不安を感じて生活される方やそのご家族が集う場として「がんピアサロン」を開催します。
同じような立場の人による支援は気持ちの共有や現実的なアドバイスができるなど様々なプラスの面があります。
「誰に相談していいかわからない」、「頭の中が真っ白・・・」、「家族ががんで、どう接したらいいかわからない」、「同じ病気の人と話がしたい」そんな悩みを話し合う交流会です。
「がんピアサポーター基礎講座修了者」が対応します。この機会にどうぞお気軽にお越しください。 ※ 診断や治療について判断するところではありません。

「ピア」とは仲間意識で「サポーター」は支える、支援することをいいます。同じがんを経験した仲間同士で支え合い、気持ちを共有し、共に問題解決の糸口を探します。

※がんピアサポーターとは

開催概要

- 開催日時 平成25年5月20日(月)～24日(金) 14:00～16:00 ※お好きな日にも、時間にお越しください。
- 場所 沖縄県庁 1階 県民ホール
- 対象 がん患者さんやその家族・遺族、または医療関係者など、特に限定はしていませんのでご自由にご参加下さい。関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。 ※途中からの参加・退席は自由です。お気軽にお立ち寄りください。
- 参加費 無料・申込不要
- 参加に際しての留意事項
 - サロン中での話は他では話さない
 - 宗教や政治活動は行わない
 - 特定の治療やサプリメントなどをすすめない

お問合せ先： 沖縄県地域統括相談支援センター
琉球大学医学部附属病院内
☎：(直通) 098-942-3407 (代表) 098-895-3331 (内線4358/4359)
fax：098-942-3408 e-mail：to-katsu@jim.u-ryukyuu.ac.jp
URL：(がんセンター) <http://www.ryukyucc.jp> (沖縄県がん診療連携協議会) <http://www.okican.jp>

がん経験者が悩み手助け
心の不安を共有
患者・家族向け初のサロン

がん経験者ある「ピアサポーター」を育成し、がん患者や家族の相談窓口となる県地域統括相談支援センター（西原町）主催の第1回がんピアサロンが13日、県庁ロビーで開催された。診断や治療を判断するのではなく、心の不安を語り、共有し合うサロンに、30人を超える患者や家族が参加。医師や家族にはにくい、病気や治療への不安や悩みを語り合った。

この日は同センターの「ピアサポーター基礎講座」を修了した安里幸雄さん、津波まゆみさんが挨拶の話を聞いた。津波さんが「サポーター」とも、私は皆さんの同僚だと思ってる。皆と一緒に問題の解決を考え、話し合いたい。今、何が一番不安ですかと語り始めた。抗がん剤の副作用、病後にも不安、高額な治療費、病院で医師には聞きづらいことも、書面に書ける。心への負担が、その場ではの悩みもある。ピアサポーターは語る。書面に書いておける。ピアサポーターを育成し、サロンを増やしていく。期待を込めて、同センターは琉球大学医学部附属病院に設置。誰でも無料で相談。問い合わせは098-942-3407(直通) X098(9) 8.



がんピアサロン
in ジュンク堂那覇店
SPRING 2014

がんピアサロンとは、がん患者さんやそのご家族が がんに関する情報を交換したり、これからの生活のこと、自分の病気について それぞれの悩みを話し合う 交流会です。普段聞けないようなことも、同じがん患者同士だと語り合ったり、「自分だけじゃない」と勇気づけられたり、分かち合えることがたくさんあります。
「誰に相談していいかわからない」、「頭の中が真っ白・・・」、「家族ががんで、どう接したらいいかわからない」、「同じ病気の人と話がしたい」そんな悩みがある方は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。 ※ 診断や治療について判断するところではありません。

日時：2014年3月7日(金) 18:00～20:00
場所：ジュンク堂那覇店 地下1Fフロア
住所 〒900-0013 沖縄県那覇市牧志1丁目19-29
※駐車料金 1時間300円(ただし購入金額5,000円以下で1時間無料、5,000円以上で2時間無料)

対象：がん患者さんやその家族・遺族、または医療関係者など、特に限定はしていませんのでご自由にご参加下さい。関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。 ※途中からの参加・退席は自由です。お気軽にお立ち寄りください。

参加費：無料・事前申込不要

お問合せ先：沖縄県地域統括相談支援センター(琉球大学医学部附属病院内)
Tel：(直通) 098-942-3407 (代表) 098-895-3331(内線4358/4359)
Fax：(直通) 098-942-3408 e-mail：to-katsu@jim.u-ryukyuu.ac.jp
URL：<http://www.gansoudan-okinawa.jp>

(3) 宮古医療圏がん患者会と医療関係者等の意見交換会

- 日時: 2014年12月12日
- 場所: 沖縄県立宮古病院(沖縄県がん診療支援病院)
- 参加者: がん患者11名,
宮古病院(院長以下8名),
宮古福祉保健所(所長以下4名),
沖縄県(担当者1名),
地域統括相談支援センター
(センター長以下3名)

第1部 講演会

- (1) 病院長; 宮古医療圏のがん医療について
- (2) 保健所長; 保健所が行っているがん対策
- (3) 患者会; 宮古病院への要望について

第2部; 全体討論

- 次回は, 2015年3月に開催(定期開催へ)
- 八重山医療圏では, 2015年2月5日開催予定



本日の内容

1. 沖縄県がん診療連携協議会
2. がん患者に対する就労支援
3. がん登録部会
4. 緩和ケア部会
5. 研修部会
6. 相談支援部会
7. 地域ネットワーク部会
8. 普及啓発部会
9. がん政策部会
10. 沖縄県地域統括相談支援センター
11. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター

沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センターの概要

1. 経緯

- 沖縄県地域医療再生基金を利用して、2013年11月琉球大学病院がんセンター内に開設
- センター長(兼任), 事務職員2名(データ集計・分析)の計3名で活動
- 琉球大学病院がんセンタースタッフ10名(特に診療情報管理士2名)が協力・後方支援

2. 在宅医療人材育成分野

- (1)在宅医療人材育成事業検討委員会の運営
- (2)医療者等の県外での研修への派遣と県内での研修会の企画開催
- (3)施設(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・老人ホーム・宅老所等)に対し「施設での看取りのための研修会」を開催
- (4)沖縄県統一在宅緩和ケア地域連携クリティカルパス
- (5)がんの在宅医療に関する情報の県民への普及啓発(沖縄県在宅緩和ケアマップ)

3. がん医療の質の向上分野に関する主な活動

- (1)院内がん登録データの分析・公開
- (2)Quality Indicator(QI)の登録・分析・フィードバック
- (3)Collaborative Staging(CS)の登録・分析
- (4)医療機能調査の分析

2015/1/30

平成26年度島根県がん対策推進協議会



55

「患者・現場・地域の声」をもとに、がん対策を

